

令和2年度 大磯高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	教育公務員としての職責を自覚し、法令遵守意識の徹底を図ること、公務外非行を未然に防止する。	コロナ禍における状況をよく理解し、不祥事の発生は回避した。コンプライアンスの必要性や重要性について繰り返し啓発し、一人ひとりが「正しく行動しよう」とする内発的動機の醸成に努めた。
職場のハラスメントの防止	人権に配慮し、尊重した対応を身につける。	コロナ禍という精神状況の影響もあり、一部の職員間において意思疎通が滞るといったことがあった。管理職による個人的な対応はもちろんのこと、組織全体の問題として捉え、業務遂行の中における改善を図りつつある。
わいせつ・セクハラ行為及び体罰・不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、冷静に真摯な態度で指導にあたる。	配慮を必要とする生徒が在籍していたが、感染症による混乱状況下の生徒の心をよく理解し、職員間で情報を共有し、適切に対処した。
成績処理や進路関係業務における個人情報に係わる事故防止	成績処理等に係わる事故防止のための体制作りを行う。進路関係の正確かつ適正な事務処理を徹底する。	非常事態の中の教育活動再開なので、通常の成績処理業務の変更は研修や資料により全職員で確認し、共通認識のもと業務を行った。コロナによって困難な進路指導であったが、情報をいち早く入手、共有し確認に確認を重ねて慎重に対応した。
入学者選抜に係る事故防止	県民に信頼される入学者選抜業務の体制の確立。	入学者選抜業務のコロナによる変更点を強調し、全職員で共有した。二転三転および急な変更もあり、例年よりもハードな業務となった。しかし事故があれば著しく県民の信頼を損なう業務であることを認識し、適切に遂行した。
危機管理時を含む業務執行体制の確保	危機の状況に応じて適切な業務を執行する。円滑な学校運営のため、合理的かつ前向きな業務執行体制を確立させる。	コロナ禍によって、マスクや消毒作業、行事の削減、授業数減少により、職員同士が意思疎通を図り、スキルを高める機会が奪われた。組織を構成する年齢層間の交流や意見交換も難しく組織力の低下が歴然としている。早急な対応が求められる。
財務事務等の適正執行	適正な私費の徴収・執行を行う。	コロナによる教育活動減少のため、私費の返金をせざるを得なかった。生徒会費、PTA会費は早急に対応し、適切に処理した。学年費は引き落としに間に合うように予算を調整し適正な額で運用した。

○ 令和2年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和3年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

コロナ禍は教育現場に深刻なダメージを与えた。まず、授業時数の減少、行事の削減、部活動の縮小により、生徒に学校の存在意義を薄れさせ、生徒は達成感や充実感を持ってなくなっている。また、教員側は生徒との共働体験の減少に加え、マスク越しの対応で素顔（顔は重要な意思疎通のツール）がわからず生徒理解が深まらない。教員間も素顔がわからず、意思疎通が著しく損なわれている。組織力の低下は間違いない。事故、不祥事の起きやすい状況にあって、よりいっそうの情報共有や協議が必要である。世代間の連携も取りにくくなっているため、グループ業務の進め方や人的配置や組織にも目配りが要求される。これらを鑑みて来年度は職場のハラスメントや業務執行体制を重点に取り組む。